

1 小学校外国語活動における教育課程実施上の課題と指導上の留意点

(1) 「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」を受けて（直山木綿子調査官より）

① 授業の中でできるだけ教室英語を使う

外国語活動が導入され5年目に入る。教師の英語力をブラッシュアップするためにも授業の中でできるだけ英語を使ってほしい。ゲームの説明を英語で行う必要はない。褒め言葉から英語で行ってみる。日本語の説明の代わりに、英語でのデモンストレーションが効果的である。児童も英語で理解できたという気持ちを持つことができる。

② コミュニケーション活動を工夫する

『Hi, friends!』を使って授業を進めるにあたり、単元の後半にコミュニケーション活動を入れる。単元の最後までゲームということのないように。他教科との関連を意識したコミュニケーション活動を仕組んでいく。

③ 1単元で授業設計をする

授業を1時間で考えるのではなく、単元で組み立てていくことが大切である。単元の終わりにどんな活動をさせたいのかを押さえておくこと。単元が集まりそれが年間指導計画につながる。他教科等でも同じことである。目標と活動、指導、評価の一体化を図る。

※「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画を受け、単語のテストや単元の確認テストを行っている学校が見られるが、適切ではない。また、指導をALTや外部人材に丸投げするのではなく、担任が中心となって進めることが重要である。現在の外国語活動を上記の三つの視点から充実させることが必要である。」

(2) 「英語教育の在り方に関する有識者会議審議」報告

① 小学校高学年教科としての目標のイメージ

「外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、身近で簡単なことについて外国語の基本的な表現に関わって聞くことや話すことになどコミュニケーション能力の基礎を養う。」

② 中学校との円滑な接続を意識した高学年教科教材（補助教材）について

補助教材について国の「英語教育強化地域拠点事業」における研究開発校等において、平成27年度より試行的に活用しながらその効果を検証。その検証結果を、小学校高学年の教科化に向け、新学習指導要領移行期に各学校において活用することを想定した新たな教材開発に生かす。

□「アルファベット文字の認識」 →アルファベット文字を認識する教材

□「日本語と英語の音声の違いやそれぞれの特徴への気付き」

→アルファベットの音を認識する教材 →単語を認識する教材

※ 発音と綴りの関係に踏み込むわけではない。（直山調査官）

□「文構造への気付き」

→これまで聞いたり言ったりした表現の語順に気付く

→これまで聞いたり言ったりしてきた表現を可視化した教材

※ **現行の学習指導要領に沿って外国語活動を実施している学校が補助教材を活用する場合**

学習指導要領に記載されている外国語活動の目標に向けて十分指導が行われていることを前提とし、資料に記載された補助教材のポイントや、上記の補助教材の性質を十分踏まえた上での活用が望まれる。（補助教材については文科省HPからダウンロード可能）

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/kokusai/gaikokugo/1356182.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1356182.htm)

**小学校 外国語活動**

(3) グローバル化に対応した英語教育改革実施計画スケジュール

27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度
補助教材配付（研究開発校等）		教科書作成	教科書検定	教科書採択	教科書の配布	
中教審における審議		新CS改訂	次期指導要領を段階的に先行実施		新学習指導要領全面实施	

2 「英語教育推進リーダー中央研修」の趣旨について

(1) 「英語教育推進リーダー中央研修」の受講者（英語教育推進リーダー）の役割

- ① 各校で中核となる小学校教員の研修講師
  - ※ 英語指導力向上研修(小学校)として年5回実施。今年度は青葉区の小学校が対象で、第2回まで終了。→センター研修 2015<基本的な研修3>研修番号 64 参照 (P37)
- ② 研究会、研究授業等における講師、助言者。
- ③ 授業・評価の改善のための日常的な指導・助言等。

(2) 研修内容の伝達の流れ

中央研修受講者を講師とする研修実習により、域内の小学校の外国語活動担当教員（中核教員）に研修内容の伝達を行う。中核教員は各校教員へ校内研修を実施する。



(3) 校内研修の内容について

【研究授業を中心にした研修会を行う場合の例】

- ① 各校の外国語活動実施状況を踏まえ、校長のリーダーシップの下、中核教員が中心となって、本研究授業のねらいと授業づくりのポイント、研修実施方法を検討する。
- ② 中核教員が研究授業のねらいに即し、「研修実習」で用いたセッションノート、絵カード等を参照しながら「研修実習」の内容を生かした指導案を作成する。
- ③ 校内で指導案を検討し、課題を出し合うとともに、参観の視点を明確にする。研究授業の前にオリエンテーションを行うなど、全教職員で共通理解する。
- ④ 参観した授業について、研究協議会を開き、効果的な指導法や今後校内で取り組んでいくべき課題を明らかにする。
- ⑤ ④で明らかになった課題について、さらに学年内で授業を参観し合い、協議を行う。その際、中核教員も授業を参観し「研修実習」で学んだ視点等から助言する。また、教務主任や研究主任も協議に参加し、各学年の指導の改善状況を把握・整理の上、通信文書等を通じて全教職員で共有するとともに、以後の授業実施のポイントについて共通理解を図る。

【中央研修 DVD 教材視聴を中心にした研修会を行う場合の例】

文科省から配付予定の中央研修 DVD 教材を視聴しながら協議を行い、望ましい外国語活動の授業のイメージを持つことで指導力の向上を図る。視聴した内容を自校で活用するための手だてについて必要なことを校内で協議する。

3 平成 26 年度小学校外国語活動実施状況調査等の結果から（平成 24 年 2 月との比較）

中学校 1 年生の変容（中学校英語担当教員調査） ※（ ）内は平成 24 年 2 月調査

- ・ 英語の音声に慣れ親しんでいる。…………… 93.5% (73.2%)
- ・ コミュニケーションを図ろうとする態度が育成されている。…………… 92.6% (72.9%)
- ・ 英語で活動を行うことに慣れている。…………… 90.9% (71.8%)
- ・ 分からない単語などがあっても、臆せず聞き続けたり聞き返したりしている。 78.5% (57.6%)
- 必ずしも英語指導の専門ではないが、小学校の担任の先生方の指導の成果が数字に表れている。
- 多くの外国語科担当教員は外国語活動導入による成果や児童生徒の変容を肯定的に捉えている。